

いーぶん

● 素敵なパートナーになるために ●

第8号

平成16(2004)年9月

特集 女の言い分・男の言い分



みなさんは「ジェンダー」ということばを知っていますか。

「女性とは違い、男性は子どもを産むことができない」というような生物学的な男女の別ではなく、例えば「育児は女がするもの」「代表者は男がなるもの」というような習慣的な考え方による性差を「ジェンダー」といいます。

このジェンダーによって「育児は女の役割だから、男がするものではない」「代表者は男がなるものだから、女はやめた方がよい」と思うてしまうことはないでしょうか。

しかし、育児が好きで得意な男性もいれば、代表者にふさわしい能力を持った女性もいます。

私たち一人ひとりが持つ様々な個性や能力を活かすためにも、性別にとらわれない考え方をしてみませんか。

特集

日常生活で「女(男)は損(得)だな」と思うことはありませんか？

女の言い分・男の言い分

男女共同参画社会では「性別にとられない」自分らしい生き方が提唱されています。しかし、現実の社会では、性別による色々な差違、様々な本音があるのではないのでしょうか。そこで、編集協力者が地域の方から意見を集めてみましたので、その一部を紹介します。あなたはどう思いますか？
言い分の中には、私たちの身の回りにあるジェンダーが隠れているかも……！

家事や介護は女性だけがするもの？



家事の手伝いを兄より多くさせられる。現実にも男女平等となるのは遠い将来で、結局女がやらなくてはならないことが多いから、その間の練習だといってやらされる。(C.G 女・10代・学生)

昼・夜ともに6人分料理の献立を考えるのが大変だが、これもお嫁さんがくれば問題なし。(N.I 女・50代・会社員)

義父・義母・実母の看病・介護が全部私にかかって大変な思いをしているが、育児は楽しかったし、50年のトータルとしては女でよかった。(T.T 女・50代・主婦)

男のほうが得だと思います。面倒なことは女の役目、楽なことは男の役目のように思います。(T.K 男・60代・会社役員)

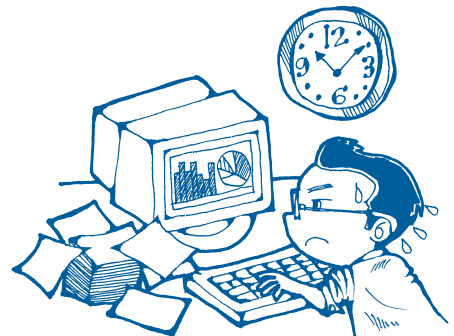
若い男女の家事労働は、お互いできる人がやることで定着してきていると思う。しかし中高年についてはまだまだ。マスコミ等で宣伝してもらおうと定着するのではないか。(T.S 女・60代・主婦)

男性だけが一家の稼ぎ手？

経済的に家族を支えることを期待されている男は大変だと思う。しかし、それが男の責任！(H.H 男・30代・会社員)

女は経済的に家族を支える責任もなく、気楽でいい。(H.K 女・40代・主婦)

男性は生涯働かなければならないので、自分の時間を持つことができない。(T.G 男・50代・会社役員)



アンペイドワーク(Unpaid work)

家事、育児、介護、看護等の無償労働のことをいいます。

こうした無償労働は、女性がその大部分を担っています。

このことは、女性の経済的自立の障害になるばかりか、男性にも一家の稼ぎ手としての過酷な労働を強い、家庭生活を楽しむ権利や女性と平等に責任を負う義務を奪うことにもなります。

男女が有償労働と無償労働をバランスよく担えるようにしていくことが大切ではないでしょうか。

なぜ男女で違うのかな？

私の会社では大体女性は定時に帰る。残業がある場合も、女性だけは用事がないか聞かれ、男性はそのまま残業をしている。

(K.H 男・10代・会社員)

同じ職場で一緒の仕事をしていても、まだ男のほうが給料が高いことが多い。(H.H 男・40代・会社員)

就職活動においての面接で「男性と同じ扱いをしても大丈夫なの？本当に仕事できる？」と最初から能力が低いと決め付けてくるのが腹立たしい。(H.Y 女・20代・学生)

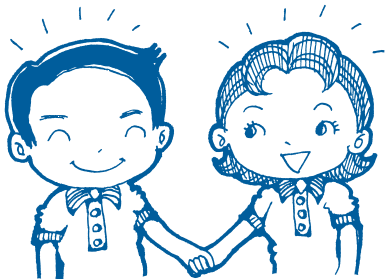


性別役割分担意識

男性・女性で異なる役割が与えられ、その役割の遂行を期待する意識のことをいいます。

例えば職場で、男女どちらでもできる仕事なのに、女性だけがする仕事、男性だけがする仕事はないでしょうか。お茶出し・コピーとり・運搬・修繕など、性別にかかわらず協力してできているでしょうか。お互い甘えをなくし、共に責任を担う社会生活でありたいものです。

損とか、得とかではなく...



生活環境の違った者同士が共同生活をするということは、とても難しいことだと思う。だからこそ平等に、お互いが助け合い、協力しながら生活していくのが一番いいと思う。損とか得とか考えると全てが嫌になってくる。(T.I 女・30代・主婦)

昔は男性社会で男性が得をする感が強かったが、最近は女性の経済的地位の向上とともに差がなくなった(自由度が増えた)のではないかと思う。仕事や育児の面で損得を考えるとやるべきこともやれなくなると思う。(T.Y 男・40代・会社員)

これからはみんなで！

封建的な時代から、男尊女卑などと言われ、男ばかり良いとされてきた日本ですが、これからは男女の区別なく、仕事や家事などすべてのことを行うべき。これが今後日本が国際的になれるかどうかの重要なポイント。

(M.K 男・50代・会社員)

賃金格差や家事に対する男女不平等も20年くらい経てば、少しはなくなると思う。そのためには子どもたちへの男女平等教育が大事。我が家ではみんなで家のことを手伝っている。意識改革が大事だと思う。

(Y.A 女・30代・家業手伝い)

男女共同参画社会

男女共同参画社会基本法では、「男女が社会の対等な構成員として、自らの意志によって社会のあらゆる分野に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。

あなたを取り巻く環境では、男女がともに個人として能力を発揮していますか？

また、様々な分野における意思決定の場に対等に参画していますか？

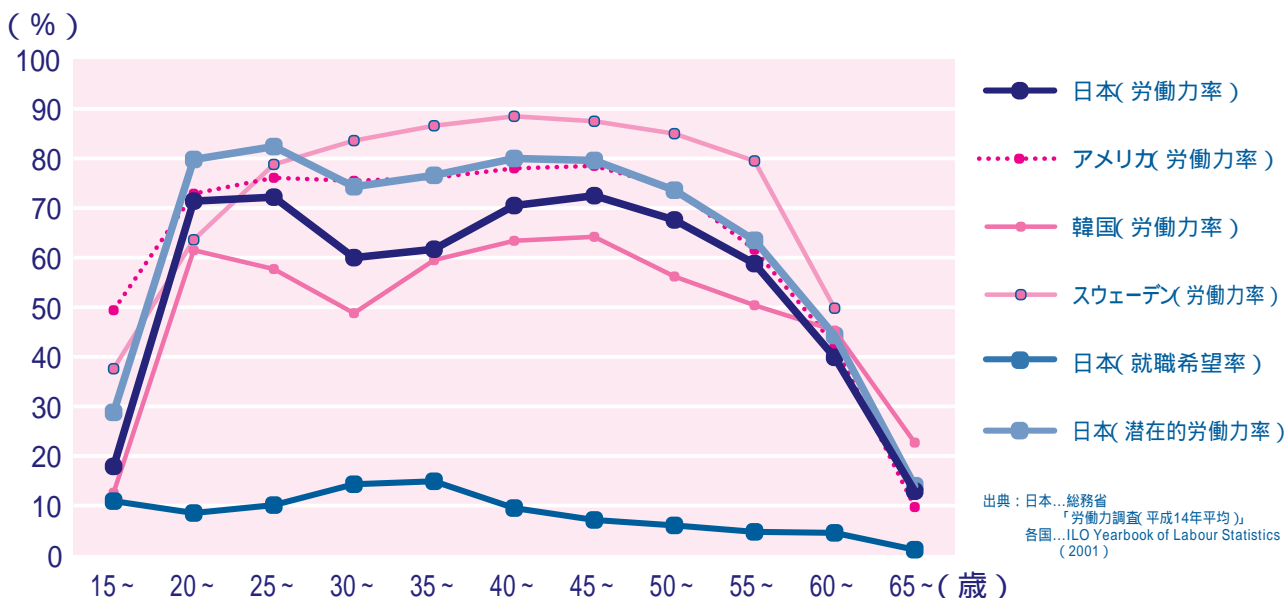
この言葉、知っていますか？

男女共同参画キーワード

M字カーブ

日本女性の働き方をみると、30歳代に結婚・出産・育児のためにいったん離職し、子育てが一段落した後、再び就業するという傾向があります。これを女性の年齢労働力率のグラフで表すと、下図 ●—● のように「Mの字」になることから、M字カーブ（M字型曲線・M字型雇用）と呼ばれています。

欧米諸国では、谷の部分が日本ほど顕著ではなく、逆U字型に近い形が一般的です。

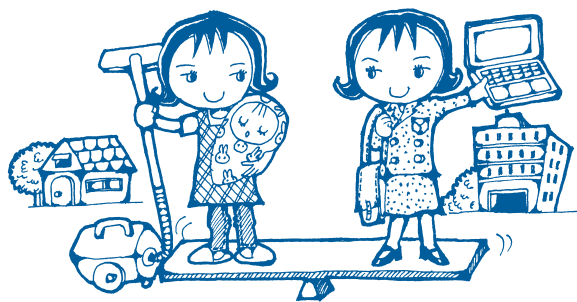


一方、女性の就業希望者を含めた潜在的労働力率 ●—● では、M字カーブの谷は上昇し、欧米諸国の形に近づきます。

これは、働き続けることを希望していても、結婚・出産・育児のために離職せざるを得ない状況があることを表しています。

この状況は、企業にとっても社会にとっても、損失なのではないでしょうか。

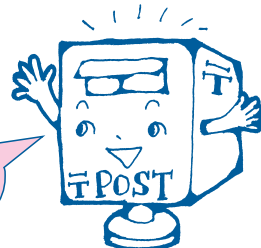
労働者の能力を活かし、男女共に家庭生活と職業生活の両立ができるよう、さらなる環境の整備が求められています。



編集後記

『いーぶん』第8号をお届けします。発行にあたり、ご協力いただいた皆様方に厚くお礼申し上げます。
 編集協力者/岡西 よし子、横井 秀子、吉田 和江、伊藤 孝司、岩田 宏美
 編集・発行/一宮市企画部企画政策課
 〒491-8501 一宮市本町2-5-6
 TEL 0586-73-9111(内線2113)
 FAX 0586-73-8034
 eメールアドレス kikakuseisaku@city.ichinomiya.lg.jp
 ホームページアドレス http://www.city.ichinomiya.aichi.jp/
 *企画政策課のホームページでは、『いーぶん』のバックナンバーがご覧いただけます。

『いーぶん』に対する
ご意見・ご希望を
お寄せください。



編集・イラスト協力者/後藤 明美